



Title	府立健康科学センター3年間のあゆみ
Author(s)	嶋本, 喬
Citation	大阪公衆衛生. 2005, 76, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83487
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

府立健康科学センター 3年間のあゆみ

大阪府立健康科学センター 所長 嶋本 喬

府立健康科学センターが府の公衆衛生活動（対人保健分野）の中核機関として、活動を開始したのは平成13年7月です。それまで大阪府では(1)他府県に比して平均寿命が短い、(2)中高年の死亡率が高い、(3)がん・心臓病等の生活習慣病による死亡や健康被害が大きい等の問題があり、府民の健康指標改善のための切り札として、府立成人病センター集検1部ほか府下の専門職種を結集して、設立されたものです。事業の4本柱として、①科学的、実践的な健康づくり技法の開発・普及、②健康情報発信機能、③健康づくりを推進する指導者の育成、④健康づくり活動の展開が挙げられています。

初年度、必要な機器を購入、整備しつつ、コンピューターシステムの完成をはかりながら、①のための健康度測定コース・各種の健康開発ドックコースの立ち上げをはかり、同時に②③④の事業も進めましたが、種々の面で当初の目標値を下回る結果となりました。しかし、2年目、3年目は、計画策定時とは社会情勢が変化したために実施し難かった事業を、実情に合わせるようやり方を工夫するなどして、事業目標はほぼ達成できました。そして生活習慣病の研究に不可欠な検診やドックの受診者に対する長期追跡の体制も整いつつあり、調査研究の基礎を構築できるまでになりました。以下、個別にその概要を述べます。

健康度測定コース（労働安全衛生法の定期健診や老人保健事業の基本健診とほぼ等しい検査項目）は、9,400人の当初予定を約12,000人、各種健康開発ドックコースとその関連検査項目よりなる精密検査は、3,460人の予定を約4,700人実施しています。健康開発ドックコース

の中では「快適睡眠コース」や「循環器病予防コース」「心身リフレッシュコース」「冷え・冷房病コース」などは順調に予定通り、或いはそれ以上に実施し、骨密度検査や血液のサラサラ度を調べるマイクロオロジー検査を取り入れた「母の日コース」などは超満員となりました。しかし、「糖尿病予防コース」や「スリムで健康コース」など類似のドックがすでに他機関に存在するものは到達目標に届かず、府民のニーズに合わせてコースの内容の変更や新しいドックコースの開発を試行中です。また、健康度測定（T HP事業）は社会情勢の変化により実施困難となったので、代って新しく府職員の健診とドックを合わせて約9,000人に実施しました。以後の追跡調査によるデータを分析することにより、府民の健康管理に役立てることとし、その体制を整えつつあります。禁煙サポートコースも当初700人の予定が300人余りの実施にとどまっていますが、これは府の「健康おおさか21」の施策にそって、府下の保健所、病院等での禁煙サポートコースの開設と普及に努めたためです。また、血清脂質の標準化・精度管理に関する事業は初年度より順調に当初計画通りに進行しています。

第2の事業である健康情報の発信については「健康ふしぎ発見広場」の各種展示、「健康クイズグランプリ」など当センターでの子供から老人まで楽しめる施設の利用、ホームページでの情報提供の他に、府民から保健所へ寄せられた生活習慣病に関する質問に対する回答集（FAQ集）を作成して、保健所等へ配布しました。また、府薬務課との連携により、府内の薬局にヘルシーライフシリーズとして、糖尿病（5枚）高血圧（5枚）を作成、配布して、薬局を訪れ

る府民が容易に入手できるようにしました。さらに、お笑い、音楽、運動、食生活等の健康にかかわる各種イベント、講演会（辻説法）等も初年度から実施しています。なお、イベント、健診、ドック等の成績を分析して、パネルで展示したり、ホームページに掲載して最新の情報を早く発信するよう努めています。

第3の事業である指導者の育成では、府の委託を受けて、保健師、栄養士ら専門家の再教育を行い、ボランティアの育成でも府の委託を受け「健康ふれ愛推進員」を3年間で約300人育成しました。現在も引き続いて実施中です。府の委託とは別に「大阪健康生きがいつくりアドバイザー協議会」の会員養成講座にも協力しています。

第4に健康づくり活動の展開については、当センターを利用したイベントの開催支援、府立成人病センター時代より継続している八尾市の健康づくりへの全面的支援、泉佐野市の国保ヘルスアップ事業への技術支援等、地域の組織的な健康づくり活動へ積極的に支援しています。

また、健康づくり技法の開発、健康情報発信等の事業の土台となる研究としては、健康度測定コースやドックコースの検査方法に関する研究にはじまり、現在受診者の追跡研究に移りつつあります。また、府立成人病センター以来、継続している秋田（井川）、大阪（八尾）、高知（野市）の生活環境や生活習慣の異なる集団の疫学研究や健康づくりも当然のことながら継続実施中です。

なお、プール及びフィットネス施設のある運動フロアでも利用者数は当初計画をほぼ達成しましたが、（年間のべ5万人）、利用者中に身体障害者（無料）の占める割合が他の同種施設の2倍あり、そのためもあって収支の面では計画達成が困難な状況です。

これらを全部含めて当センターの入館者数は毎月20,000人以上であり、当初の目標を達成しています。

以上の諸事業の遂行に当たっては、隣接の成人病センター、がん予防検診センター、公衆衛生研究所とともに森の宮健康ゾーン会議を定期的に行い、受診者（患者）の検査等の受け渡し、府民への講演会などを通して相互協力の推進に努めています。

とりわけ、当センターの立ち上げに当たる3年間は、府下保健所から多くの医師の研修による協力を得ており、ここに厚く御礼申し上げます。3年間で調査研究の基礎固めは出来たものの、研修医師の減少とともに医師不足のため、医師が日常業務のみに追われ、研究データの解析が遅れつつあります。健診やドックの実施、データの疫学的解析等に関心のある医師に、共同研究に参加下さるよう紙上を借りてお願いいたします。